



三重県公立小中学校教頭会
〒514-0003 津市桜橋 2 丁目 142
教育文化会館別館 3 階
TEL 059 (228) 2340
FAX 059 (228) 2271
E-mail:mieheadt@hyper.ocn.ne.jp



5月12日（火）に開催されました「第61回三重県公立小中学校教頭会総会」におきまして、私を含め8名を新役員としてご承認いただきました。長きにわたり本会を支えてこられた諸先輩方の歩みに深く敬意を表し、この節目に立たせていただくことに、身の引き締まる思いとともに、温かな励ましをいただいたような心持ちでおります。役員一同、心を合わせて取り組んでまいります。

学校を取り巻く環境は、ICTの進展、AIの導入、少子化、地域社会の変容、価値観の多様化など、日々大きく姿を変えています。そのような中で改めて感じるのは、子どもたちが互に関わり合い、学び合う「つながり」の力の確かさです。友と語り、協力し、時に意見を交わしながら育まれる経験は、学びに深みを与え、心を豊かにしていきます。

また、子どもたち一人ひとりが異なる背景や特性をもちながら、自分らしく輝ける場をつくることは、学校の大切な役割です。違いを認め合い、その違いが学びを豊かにすることを実感できる環境を整えることは、これからの学校に欠かせない視点だと感じています。

さらに、学校は地域とともに歩む存在でもあります。地域の方々が寄せてくださる温かなまなざしや支援は、子どもたちの学びを支える大きな力となっています。地域の知恵や文化、人

のつながりを学校教育に生かし、子どもたちが自らの暮らす地域を誇りに思えるような関わりを広げていくことは、学校の未来を形づくる大切な営みです。

そして、私たちは、これからの学校の姿にも思いを馳せています。子どもたちが自ら学びを選び取り、仲間と協働しながら新たな価値を生み出していく学校。多様な学びが柔軟につながり、地域や社会と開かれた関係を築く学校。教職員が互いを支え合い、専門性を高めながら、子どもたちの可能性を伸ばしていく学校。そうした未来の姿を思い描きながら、日々の歩みを積み重ねていきたいと考えています。

そして何より、教頭同士が支え合い、励まし合える関係であることは、私たちの大きな力です。悩みを共有し、知恵を持ち寄り、互いの経験に学びながら前へ進む。その温かなつながりが、学校をよりよい方向へ導く原動力になると信じています。本教頭会は、これからも「つなぐ、つながる」を大切な理念として掲げ、人と人、学びと学び、学校と地域を結びつける取り組みを進めてまいります。多様なつながりの中にこそ、新たな可能性が芽生え、次代の学校づくりへと確かな歩みが生まれると感じております。

最後になりますが、会員の皆様の温かいご支援とご協力をお願い申し上げ、就任のご挨拶とさせていただきます。

令和8年度 県教頭会本部役員名

役 職	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
会 長	斎 藤 祐 子	津市立成美小学校		
副 会 長	廣 脇 正 人	鳥羽市立安楽島小学校		
副 会 長	山 本 勇 樹	鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校	水 谷 光 良	名張市立箕曲小学校
書 記	三 鬼 敏 基	紀北町立船津小学校	辻 久 美	四日市市立三重小学校
会 計	谷 本 博 史	津市立南立誠小学校	畑 中 匡 志	松阪市立松江小学校

事 務 局 長	辻 幸 子
---------	-------

E-mail : mieheadt@hyper.ocn.ne.jp
ホームページ : <http://mie-kyotokai.jp>



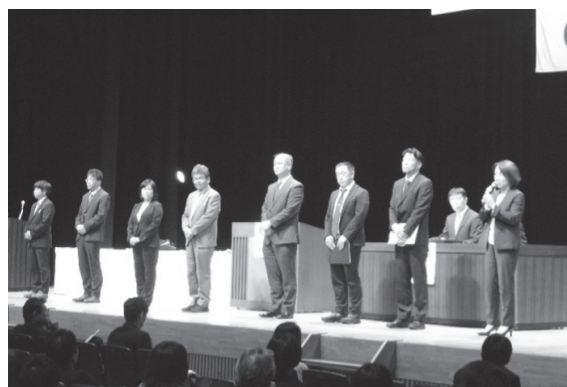
令和8年度

研修会並びに第61回定期総会が開催されました

令和8年5月12日（火）三重県総合文化センターにおいて、第61回定期総会が開催されました。三重県内の教頭が一堂に会し、盛会に行われました。議事・進行につきましても、議長をはじめ、旧役員の皆様のスムーズな運営により、予定通りに円滑に進行されました。

議事として、令和7年度会務報告と専門部報告、令和7年度会計決算報告、令和13年度全国研究大会三重大会担当地区並びに令和9年度以降県研究大会担当地区の決定、令和8年度活動方針並びに会計予算、大会宣言などが提案され、承認されました。

また、令和13年度の全国研究大会三重大会は



令和8年度役員



令和7年度役員

鈴鹿市並びに松阪市（中心）と亀山市並びに多気郡（補助）の4地区の教頭会が担当し、全教頭が一心同体となって取り組むことが承認されました。また、令和9～14年度の県研究大会の担当地区については、令和9年がいなべ市・員弁郡と亀山市、10年が南勢・志摩地区（度会郡中心、伊勢市補助）、11年が紀北・紀南地区（紀南中心、紀北補助）、12年が伊賀・名張地区（名張市中心、伊賀市補助）、14年が桑名地区（いなべ市・員弁郡中心、桑名市・桑名郡補助）とすることが承認されました。

最後に、今年度の三重県大会担当地区である鈴鹿市教頭会会長より挨拶がありました。

令和8年度 県教頭会 専門部員名

◎部長 ○副部長 ◇本部

総務部	◎池山浩隆 谷本至	○藤谷明弘	木下嘉代	◇斎藤祐子 ◇廣脇正人
研究部	◎伊川敬子 樋口由憲	○角谷美幸 大山浩	川村孝次郎 久保田彰	◇山本勇樹 ◇水谷光良
調査部	◎中川和加子 高橋健士	○林玲子 世古昭子	橋本弥生	◇谷本博史 ◇畑中匡志
広報部	◎松井伊都子 足立聡子	○岩田章子 川上眞貴子	高橋慎子	◇三鬼敏基 ◇辻久美

令和8年度 郡市会長・県教頭会理事名

郡市名	会 長		理 事	
	名 前	学 校 名	名 前	学 校 名
桑名市・桑名郡	武藤祥弘	光陵中学校	藤谷明弘	大山田東小学校
いなべ市・員弁郡	黒田和美	阿下喜小学校	橋本弥生	石搏小学校
四日市市(小)	森祐也	海蔵小学校	岩田章子	大矢知興譲小学校
四日市市(中)	山本正人	西隆中学校	川村孝次郎	桜中学校
三重郡	白井聡	菰野中学校	高橋慎子	鵜川原小学校
鈴鹿市	前田満明	愛宕小学校	伊川敬子	若松小学校
亀山市	赤坂達生	亀山東小学校	林玲子	野登小学校
津市北	清長隆司	みさとの丘学園(後期)	池山浩隆	安濃小学校
津市中	石見智彦	西郊中学校	角谷美幸	橋北中学校
津市南	桂山典子	栗葉小学校	中川和加子	久居西中学校
松阪市	中井麻美	鵜小学校	高橋健士	第四小学校
多気郡	小山直子	日進小学校	樋口由憲	斎宮小学校
伊勢市	濱田泰広	北浜小学校	世古昭子	四郷小学校
度会郡	辻早織	大紀中学校	足立聡子	南勢小学校
鳥羽市	濱田耕司	菅島小学校	木下嘉代	弘道小学校
志摩市	福岡健太郎	文岡中学校	大山浩	大王中学校
伊賀市	廣澤昌昭	久米小学校	久保田彰	上野北小学校
名張市	鈴木佐知	比奈知小学校	松井伊都子	赤目中学校
紀北	遠藤智晶	三船中学校	川上眞貴子	賀田小学校
紀南	南圭輝	鵜殿小学校	谷本至	五郷小学校

令和8年度 新 任 教 頭 名

4月1日現在 92名

教頭会	名 前	学校名	名 前	学校名	名 前	学校名
桑名	山 際 厚 清 水 智 則	修 徳 小 多度学園 (前期)	山 口 由 紀	七 和 小	川 端 浩 輝	成 徳 中
いなべ市・ 員弁郡	今 西 二 郎 松 林 智 子	治 田 小 笹 尾 西 小	茂 村 節 美 稲 田 保 昭	十 社 小 笹 尾 東 小	田 中 初 佳 安 藤 智 輝	大 安 中 東員第一中
四日市小	近 田 充 齋 藤 徳 顕 大 熊 雅 教 坂 口 早 苗	塩 浜 小 桜 台 小 日 永 小 水 沢 小	高 橋 啓 丹 羽 晶 子 渡 辺 文 子	高 花 平 小 浜 田 小 桜 小	吉 川 記 代 永 井 孝 明 野 崎 章 雅	笹 川 小 羽 津 小 大矢知興小
四日市中	浅 野 圭主馬 池 山 典 行 荻 田 実 樹	塩 浜 中 楠 中 保 々 中	板 東 伊 吹 池 本 圭 宏	常 磐 中 笹 川 中	西 村 嘉 朗 川 田 重 弥	三 重 平 中 朝 明 中
三重	福 尾 優 三	川 越 南 小	近 藤 智 子	菰 野 中		
鈴鹿	西 井 ゆかり 長 島 美由紀 小 川 裕 成 早 川 宜 成	飯 野 小 石 薬 師 小 天 栄 小 創 徳 中	鈴 木 亜紀子 井 村 朋 美 山 田 啓 義	椿 小 白 子 小 井 田 川 小	横 矢 規 玉 田 智 和 北 谷 明 希子	国 府 小 玉 垣 小 桜 島 小
亀山	長谷川 貴 子	白 川 小	川 面 圭 紀	加 太 小	齊 藤 萌	中 部 中
津北	藤 原 今日子	千里ヶ丘小	畑 中 かおり	朝 陽 中		
津中	中 村 ひとみ 笹ノ内 昭 人	西 が 丘 小 西 橋 内 中	山 埦 尚 志 前 地 直 樹	修 成 小 雲 出 小	河 原 拓 矢	東 橋 内 中
津南	栗 原 健 大 窪 規 洋子	柿 原 小 久 居 中	太 田 修 三 中 村 仙 子	香 良 洲 小 香 海 中	西垣戸 桂	家 城 小
松阪	佐 藤 美 佳	第 三 小	浅 井 祐 治	鎌 田 中		
多気	中 田 慎 太朗	明 和 中				
伊勢	古 野 香百合 古 野 和 敏 脇 岡 愛	進 修 小 中 島 小 二 見 中	山 本 康 弘 鈴 木 裕 子 中 村 幸 治	佐 八 小 明 倫 小 桜 浜 中	山 口 美 幸 小 西 周 子	東 大 淀 小 城 田 中
度会	奥 村 春 美	下外城田小	平 岩 洋 佑	南 島 東 小		
鳥羽	千 草 智 美	鳥 羽 小	大 東 昭 彦	登 志 小		
志摩	里 中 麻衣美	志 摩 小	川 口 成 紀	磯 部 小		
伊賀	中 森 敏 文	中 瀬 小	師 井 佐知子	青 山 小	田 矢 聡 子	青 山 中
名張	大垣内 清 広 高 柳 宇 津美	桔梗が丘東 南 中	谷 口 文 隆	蔵 持 小	竹 野 弘 樹	梅 が 丘 小
紀北	森 中 康 央 野 貴 央	尾 鷲 小 尾 鷲 中	中 村 佳 栄 庄 司 いく子	矢 浜 小 上 里 小	田 上 良	向 井 小
紀南	加 古 和 久 濱 田 武 子 濱 口 怜 子	飛 鳥 小 有 馬 中 矢 淵 中	小 木 曾 慶 野 口 聡 志 川 端 朋 子	入 鹿 小 成 川 小 阿 田 和 小	木 村 由 佳 西 濱 広 亮 辻 義 典	新 鹿 中 相 野 谷 中 神 志 山 小

新しい風



成徳中で 再び歩み始めて

桑名市立成徳中学校

川 端 浩 揮

この春、16年ぶりに成徳中学校へ教頭として赴任しました。校舎に足を踏み入れた瞬間、懐かしさと同時に、当時とはまったく違う立場でこの学校に戻ってきたことを実感しました。入学式では、かつての教え子が保護者として声をかけてくれる場面もあり、年月の流れと「出会い直し」の不思議な温かさやうれしさに胸が熱くなりました。

私は長い間、教育委員会で勤務していたため、久しぶりの学校現場は驚きの連続でした。日々のスピード感、次々と舞い込む案件、処理が必要な文書の量、判断の速さが求められる場面の多さに戸惑うばかりです。また、私が現場を離れている間に、ICT環境は大きく進化し、働き方改革に伴い時間の使い方も変わりました。その他にも、組織としての学校運営の在り方、地域との関わり方、危機管理体制など、私自身が教頭職としてアップデートすべきことは数え切れません。

一方で、子どもたちの人懐っこい姿、先生方が子どもを思い合う気持ち、地域の温かさといった「変わらないもの」も確かにここに 있습니다。新しい生徒との出会い、先生方との出会い、地域との出会い、そして教え子との再会。その全てが、今の私にとって大きな励ましとなっています。

教頭としての仕事は、これまでとはまったく別の職種に就いたかのように感じるほど慣れないことばかりですが、校長先生をはじめ、多くの先生方に支えていただきな

92名の方が本年度新しく教頭として着任されました。フレッシュな声をお届けします。

がら、なんとか日々を積み重ねています。これからも、校長先生が描く学校ビジョンの実現に向け、より良い学校づくりに力を尽くしていきたいと思います。そして、これまでの経験を生かしつつ、今できることに精いっぱい取り組み、自分らしく一歩ずつ前進していきたいと思っています。



「一期一会」を 大切に

いなべ市立大安中学校

田 中 初 佳

22年前に初任者として赴任し、多くのことを学んだ大安中学校に、教頭として戻ってきました。新校舎となったことで、どこに何があるのか分からない新鮮さを感じる一方で、職員、子どもたち、保護者、地域の方のあたたかさに懐かしさを感じながら、日々を過ごしています。

4月から教頭としての仕事が始まり、慣れないことの連続ですが、校長先生をはじめ職場のみなさんの存在はとても心強く、さまざまな場面で支えていただいています。そして、教頭という立場になったことで、これまで自分が大切にしてきた「一期一会」という言葉を、あらためて強く意識するようになりました。

「一期一会」という言葉を初めて知ったときは、この言葉を単に「人との出会いを大切にする」という意味として捉えていました。しかし、この言葉には「二度と同じ日や同じ瞬間は巡ってこないからこそ、その一瞬一瞬に誠心誠意向き合う」という意味が込められているそうです。これまでも、「また会えるだろう」「次はこうしよう」と考えているうちに、その機会が二度と訪

れず、後悔した経験がありました。教頭という立場では、保護者や地域の方と直接お会いしたり、お話ししたりする機会は、そう多くありません。だからこそ、忙しい日々の中でも、職員や子どもたちはもちろん、保護者や学校に関わってくださるすべての方々との「今この瞬間」を大切に、真摯に向き合っていきたいです。

これから教頭として、まわりの人たちの強みを見つけ、一人ひとりが自信をもって自分の強みを発揮し、みんなで支え合いながら前進していける「チーム大安中」を目指します。そして、自分に関わってくださるすべての人たちへの感謝を忘れず、自分らしさを大切にしながら、これからも成長していきたいです。



「また明日がある」が 大切にされる職場をめざして

四日市市立大矢知興譲小学校

野 崎 章 雅

6年間の教育委員会での勤務を終え、久しぶりに学校現場へ戻ると、タブレット活用やICT環境の充実など、学校の様子が大きく変わっており、まさに「浦島太郎状態」からのスタートでした。それでも、日々子どもたちの笑顔や元気な声に、毎日たくさん力をもらっています。

私は、「子どもたちは学校に来るだけで素晴らしい」と思っています。朝、元気に登校できる日もあれば、気持ちが重く、それでも一歩を踏み出して学校へ向かう日もあります。子どもたちはそれぞれに悩みや不安、期待や夢を抱えながら学校生活を送っています。そのような中で、学校へ来て友だちや先生と関わり、今日一日を過ごしていること自体が、とても価値のあることだと感じています。

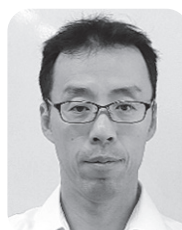
同時に、それは子どもたちだけではありません。毎日、子どもたちのために向き合い続けている教職員に対しても、「今日も

よく学校に来たね」と、互いに声を掛け合えるような温かい職場でありたいと思っています。

とはいうものの、理想と現実はほど遠く、温かい声をかける余裕などなく、気が付けば17時・・・、という日々の繰り返しです。

忙しい毎日の中では、思うようにいかないことや悩むことしかありませんが、それでも、「ま、いっか」「また明日がある」と少し肩の力を抜きながら、こどもも教職員も安心して過ごせる学校でありたいです。

「また明日がある」と、率先して定時退校できるよう頑張ります。



生徒と共に 教職員と共に

四日市市立常磐中学校

板 東 伊 吹

教頭として本校に戻ってきて1か月が過ぎた。15年程前、私は教員として同じ中学校に勤務していた。当時は授業や部活動等、生徒と向き合うことが中心で、学校全体を見渡す視点を持つ余裕はなかった。しかし今、教頭として学校運営に携わる中で、当時の教頭が生徒だけでなく教員一人ひとりを丁寧に見守っておられたことを改めて実感している。立場が変わることで見える景色が大きく変わり、その責任の重さと同時に、学校という組織の力強さを感じる日々だ。

本校には600名を超える生徒が在籍しており、教頭として生徒と直接かかわる機会は決して多くない。それでも、先日の生徒集会で数年前の教員生活の話をしたが、後日その内容を覚えていた生徒が多く驚かされた。また、授業の見回りをしていると手を振ってくれる生徒や、休み時間に声をかけてくれる生徒もあり、距離が縮まっていくことに喜びを感じている。生徒たちの素直さや温かさに触れるたび、この学校の未来に大きな可能性を感じる。

教頭の仕事は、表に見えない調整や支援が中心である。しかし、その積み重ねが教職員の働きやすさを生み、生徒の安心と成長につながっていく。だからこそ、日々の一つひとつの業務に意味を見出して取り組んでいる。学校ビジョンに掲げる、生徒が「生き生きと輝く」学校を実現するために、これからも教職員とともに力を合わせ、より良い学校づくりに取り組んでいきたい。



現場の誠実な 日常とともに歩む

菰野町立菰野中学校

近 藤 智 子

この度、新任教頭としての一步を踏み出すこととなりました。これまでは行政職としての勤務が長く、長らく学校現場を離れていましたが、学校へ戻り朝から生徒たちの明るい声が響く環境に身を置く中で深い感慨を覚えています。

4月の教頭職は、調査報告や事務作業に追われると諸先輩から伺っていましたが、確かに目まぐるしい毎日ではありましたが、大きな滞りもなく無事に終えることができました。それは、目の前で生き生きと活動する生徒たちの姿や活気ある学校現場の雰囲気の後押しされたからではないかと感じています。

何より感銘を受けたのは、先生方の教育活動です。生徒への迅速な対応、一人ひとりに寄り添ったきめ細かな指導・支援。そして、職員間の確かな情報共有。生徒たちが落ち着いて新しい一年のスタートを切ることができたのは、まさに先生方の尽力があってこそだと痛感しています。

時間を見つけてはタブレットを手に各教室へ足を運んでいます。授業では生徒同士の対話が展開されており、学習者の視点で参観しながら、先生方の手立てに「なるほど」と教科の魅力を味わう瞬間もあり、充実した時間となっています。

本校は、今年度より学校経営の柱に「自律」を掲げています。管理によって縛るのではなく、生徒に判断を委ねる場面を設定し、自己決定できる力を育む教育をめざしています。そのためには、結果だけでなく生徒の歩みのプロセスを認め、ポジティブな意味付けを行うフィードバックが欠かせません。

これは教職員の関係においても同様であると考えます。多忙な業務の中でも精一杯取り組まれている先生方をしっかりと支援し、誰もが教育活動に挑戦できる環境を整えることが責務であると考えています。先生方の実践のプロセスを見取り、価値づけをしながら、共に活力ある学校づくりに努めてまいりたいと思っています。これからの菰野中学校での歩みが楽しみでなりません。



ゼロからの挑戦、 活気あふれる 新設校の未来を拓く

鈴鹿市立天栄小学校

小 川 裕

令和8年4月、3つの小学校の学校再編により、本校は新たな息吹とともにスタートを切りました。異なる背景を持つ子どもたちや教職員が集い、生まれ変わった新設校は、今まさにエネルギーと活気に満ちあふれています。この記念すべき学校の教頭として職責を担うことに、強い使命感と誇りを感じております。

開校当初は、学校規模の拡大に伴う運営体制の再構築、新たな教職員集団の融和、地域連携の模索、そしてスクールバスの導入など、多くの戸惑いや課題がありました。しかし、保護者や地域の皆様に見守られながら、一つひとつ課題を乗り越え、学校としての確かな歩みを進めています。

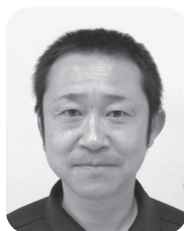
前例がないということは、すべての取り組みが「ゼロ」からのスタートであるということです。私はこれを「生みの苦しみ」

と捉えるのではなく、新設校だからこそあらゆる可能性に果敢にチャレンジできる、最高の好機であると考えています。

教頭として確かなリーダーシップを発揮し、教職員が過去の慣例にとらわれず、自由な発想で生き生きと挑戦できる職場環境を築いていきたいと思っています。同時に、本校が地域コミュニティの要となるよう、こども・保護者・地域を繋ぐハブとしての役割を果たしていく決意です。

現在、本校では一大プロジェクトとして、全校で取り組む「校歌の歌詞づくり」が始動しています。全員の思いを紡ぎ、未来へ歌い継がれる伝統をここから創り上げます。

新設校の輝かしい未来とこどもたちの笑顔のため、情熱をもって職務に邁進していきます。



繋ぐ役割、育む情熱 ～亀山の地で、確かな 学校経営を支える～

亀山市立中部中学校

齊 藤 萌

歴史の息吹が残る亀山市の中学校で、この4月から新任教頭としての第一歩を踏み出しました。昔は、東海道の要として栄えたこの地の活気と、豊かな自然、そして生徒たちの清々しい挨拶に触れ、改めてその職責の重さに身の引き締まる思いです。教頭という新たな立場に身を置く今、私が大切にしていきたいことは「繋ぐ」という使命です。

第一の目標は、「校長のビジョンと現場の実践を繋ぐ」ことです。学校経営の羅針盤である校長の経営方針を深く理解し、それを具体的な教育活動として教職員に浸透させる「翻訳者」でありたいと考えています。組織としての方向性を一つにし、全職員が同じ目的地を目指して歩めるよう、対話を重視した調整に尽力していきたいと思っています。

第二に、「教職員の情熱とウェルビーイ

ングを繋ぐ」ことです。子どもたちの成長を支えるのは、他ならぬ教職員一人ひとりの情熱です。多忙化が課題となる昨今ですが、教職員が心身ともに健康で、授業や生徒との関わりに専念できる環境づくりは教頭の喫緊の課題です。業務の効率化を推進し、風通しの良い職場環境を整えることで、教職員が「明日もまた教壇に立ちたい」と思える学校組織を構築していきたいです。

第三に、「学校と地域・保護者を繋ぐ」ことです。亀山市には温かな地域コミュニティがあり、学校への期待も多大です。開かれた学校づくりを推進し、地域の皆様の声を真摯に受け止めながら、共に子どもたちを育む「パートナーシップ」を深めたいと思います。

新任教頭として、迷い、立ち止まることもあるかもしれませんが、その都度「生徒一人ひとりの幸せのために」という原点に立ち返り、誠実に、かつ柔軟に職務にあたりたいと思います。三重の教育の更なる発展に寄与できるよう、中部中学校の教職員と共に、一歩ずつ力強く歩みを進めていきたいです。



2 か月を経て…

津市立朝陽中学校

畑 中 かおり

「4月は激務だから、身体にはくれぐれも気をつけてね」と、前任校の管理職の先生に言われ、見送られました。激務？ いったい、どういうことだろう…。

赴任先は以前勤務したことがある学校でしたが、懐かしさに浸ることなく、パソコンの画面を見つめるばかりでした。次から次へとやって来る調査。時間はあっという間に過ぎ、迫ってくる締切日。初めて見るものばかりで、事務の方には大変お世話になりました。今までこんなにもパソコンに向かう仕事はなかったので、前任校の教頭

先生から目が疲れるからといただいたアイマスクはありがたかったです。「とりあえずGWまでがんばろう！」と自分自身に言い聞かせ、1週間、2週間と流されるままに過ごしていました。教頭先生の仕事って幅広い！と何度思ったことかわかりません。調査報告や文書作成、会議の準備、環境整備など大変ですが、教諭のころとは違ったところに目を向けなければならぬと改めて実感しました。午前中に仕上げようと取り掛かった仕事も、計画的に進んだことはほとんどなく、「えっ、もう給食の時間？」こんな毎日です。振り返ってみると、私は一日に何度も「教頭センセー」と呼んでいました。こんなにたくさんの仕事を抱えている中、話しかけると快く対応してくれた教頭先生のお顔が浮かんできます。

確かに激務ではありますが、この2か月間を乗り切ることができたのも、今の職場の先生方のおかげです。とても感謝しています。教頭としての業務内容も学校にとって大事なことで、私自身を成長させてくれるものと捉え、前向きに取り組んでいこうと思います。まだまだ抜けていることもあり、たくさん助けていただいています。自分が出来ることを少しずつ増やしていき、支える側になりたいです。そして、今まで出会った教頭先生のように、自分の持ち味をいかした教頭先生になれるよう、日々努力していきます。



「おかげさま」で

津市立東橋内中学校

河原 拓矢

教頭として新たな立場を務めることになり、早や一か月半が経ちました。昇任が決まって以降、周りの管理職の先生あるいは管理職経験者の先生方から4月の教頭業務の大変さをたくさん聞いていました。ですから、ある程度の心づもりはしていました

が、まさに聞いていた通りの忙しさでした。年度初めの職員会議をはじめとする各会議、入学式などの学校行事の準備の中で追われる提出文書、書類の山で全く余裕がありませんでした。しかし、忙しいことが大変だったというよりも、あまりにもわからないことが多すぎ、そこが一番しんどかったように思います。

そんな大変な中でしたが、支えとなったのは周りの先生方とのつながりです。同じように新しい職場や環境に不安や悩みをかかえる先生もみえます。そんな先生方から相談を受け、私も話を聞いてもらうことで「自分一人ではないのだ」と前向きな気持ちになることができました。また、校長先生をはじめ、以前からみえた先生方にも些細な質問にも丁寧に応えていただき、たくさん助けられました。そして、他校の教頭先生から連絡をいただいたり、過去にお世話になった先生方から、親しみを持ったお声がけをいただいたりと、周りの方からたくさんエネルギーをもらいました。

この一か月半、多くの先生方と話をしたり接したりする中で、子どもも大人も「対話」が不可欠であると改めて感じました。4月と比べると忙しさは多少落ち着きました。授業を見に行ったり、子どもたちとたくさん関わったりすることが、先生たちと話すこと、関わることに繋がります。少し余裕も出てきて、そんな自分のやりたいことにも少しずつ取り組んでいきたいと思っています。教頭として走り出し、戸惑うことや課題もありますが、おかげさまで自分が周りのたくさんの人に支えられているように、自分も周りの先生方、学校を支えられるように尽力していきたいと思っています。



自分らしく

津市立久居中学校

大 窪 規洋子

私が教頭を志したきっかけは、かつて出会ったある先生の存在でした。その先生はいつも職員室を明るくし、自ら進んで多くの先生方に声をかけ、悩みに耳を傾けておられました。その姿に憧れ、「自分もあんなふうに、先生方を支えられる存在になりたい」と強く願うようになりました。周りからは、いわゆる「打診」があつて教頭になる方が多いのではと言われるますが、私の場合は、自らの意志でこの道を選び、試験に挑みました。

現在は教頭二人配置の学校に勤務しており、「仕事は分担しているのですか？」と尋ねられることもあります。あえて厳密な線引きをせず、お互いにこぼれているところを補い合いながら、柔軟に連携しています。もう一人の教頭先生が非常に正確にお仕事をされる一方で、私は至らない点も多く、申し訳なさを感じることも少なくありません。しかし、それもまた「自分らしさ」と前向きに捉えるようにしています。

教諭時代、私は「完璧でなければならない」と思い詰め、一人で仕事を抱え込んで苦しんだ時期がありました。その時は自分らしさを見失い、余裕もなくなっていました。その経験があるからこそ、教頭となった今は「一人で抱えず、周囲の力を借りよう」という思いで日々を過ごしています。「教頭だからこうあるべき」という固定観念に縛られず、等身大の自分でいたいと思うのです。

あの日憧れた教頭先生に一步でも近づけるよう、これからも先生方との対話を大切にし、誰もが安心して悩みを打ち明けられるような、温かい職員室づくりに努めてまいります。



「あい」あふれる学校に

松阪市立鎌田中学校

浅 井 祐 治

久しぶりの学校現場に戻り、生徒は一人一台端末を活用し個別最適な学習を行い、教員は校務支援システムの導入、ICT機器を活用した授業、情報共有システムの活用など、大きな変化を感じています。戸惑いながらの教頭業務ですが、教職員、事務職員の方々に支えられながら、日々充実した毎日を過ごしています。

反対に、以前と変わっていないと感じたことは、人と人とのつながりの重要性です。教員同士や教師と生徒はアプリを用いて情報共有できるものの、話し手が本心を伝えることについて十分とは言えません。校長先生や各学年の先生方、生徒たちと実際に会話し、お互いの思いを伝え合うことによって、みんなが納得できる方向に進んでいくことがとても重要だと感じています。また、本校では、コミュニティ・スクールを最大限に活用するため、学校施設内に地域コミュニティセンター（旧 公民館）が設置されています。今後も地域との対話を大切にしていきたいです。以前の学校現場と現在の違いを感じ、変化してはいけない部分にも気づけることは、現場を離れた期間があるからこそその感性であると思うので、思いを伝え合いながら、学校・家庭・地域が一丸となって生徒を支えていきたいと思っています。

現在の中学生はコロナ禍を過ごし、協働学習や体験活動はもとより、人との距離も制限されてきたため、相手の表情から雰囲気を感じることが苦手な生徒もいます。対話とつながりを大切にし、学校教育目標である「あい」あふれる鎌中の創造を目指していきたいです。



笑顔がつながる 「美味しい」のその先へ

明和町立明和中学校

中 田 慎太郎

「今日のご飯、何かな？」

お昼前、廊下に漂ってくる香ばしい匂いに、生徒も教職員も思わず鼻をくすぐられます。

本校の自慢の一つは、何といてもこの「美味しい給食」です。

実はこの美味しさには、ヒミツがあります。献立を作る栄養職員は、単に栄養バランスを整えるだけではありません。食材の切り方一つ、味がしみ込むまでの数分の違い…。そんな細部にまで「一番美味しい状態」を追求し、調理員さんとビジョンを共有しています。そして、生徒たちの「美味しかった！」という声を共有することで、調理現場のモチベーションを高めているのです。そこにあるのは、「食をとおして学校を良くしたい」という真っ直ぐな情熱です。

校内全体に目を向けてみると、私たちの職場には、そんな給食の現場と同じような「熱い思い」や取組が溢れています。学習指導や学級経営に情熱を注ぐ担任と副担任、生徒の悩みや不登校支援に寄り添う担当、一人ひとりの特性を大切にする特別支援担当、さらには学校運営を支える事務、子どもたちの健康を守る養護、地域と学校を結ぶCS担当等。本校の教職員は皆、自分の担当分野に対して「もっとこうしたい」「生徒のためにこうありたい」という強いこだわりとビジョンを持って働いています。

教頭としての私の役割は、この一人ひとりが持つ素晴らしいエネルギーを、一つの大きな流れにすることだと考えています。それぞれの取組がバラバラに存在するのではなく、点と点が線で結ばれ、人と人、取組と取組がつながるように。みんなが同じゴールをめざして進んでいけるよう、接着

剤や橋渡しのような存在でありたいと考えています。

美味しい給食が私たちの心とお腹を満たしてくれるように、教職員の情熱と取組が結びつくことで、生徒たちが安心して自分らしく成長できる「温かい学校」を創っていきたいと思っています。



20年の歩みを糧に

伊勢市立桜浜中学校

中 村 幸 治

私は教員生活21年目を迎え、教頭として新たなスタートを切りました。「自分はうまくできているだろうか」と内省する毎日です。しかし、就任前から心に誓っていることがあります。それは、「忙しさを理由に後悔する働き方はしない」ということです。多忙な職責だからこそ、大切なことを見失わず、納得できる選択を積み重ねていきたいと考えています。

こうした思いの背景には、これまでの20年間の歩みがあります。14年目には部活動指導や教育実践を評価していただく機会がありました。夢中で生徒と向き合い、積み重ねてきた実践が結実したことは、教師としての大きな自信となり、私の教育活動の基盤となっています。しかし、その後、指導教諭時代には日々の校務に追われ、職責に見合う働き方ができず力不足を痛感しました。この時の悔しさこそが、私の教頭としての原点です。

その後、市の教育委員会への異動は、学校現場を改めて見つめ直す契機となりました。学校は、教職員や地域だけでなく、教育委員会や外部機関といった多様な立場の支えで成り立っていることを実感しました。また、多くの管理職の方々と対話する機会にも恵まれ、学校経営の在り方やリーダーとしての姿勢を学び、視野を大きく広げることができました。

また、主幹教諭として勤務したときには、特定の学年に属さない立場で学校全体を客観的に見渡す経験を積みました。先輩からは、教諭とは異なる「視座」で考える重要性を教えてくださいました。何より、教頭先生の職務を間近で見ながら、業務の一部を担ったことは、教頭職への心の準備を整える助走期間となりました。これまでのすべての経験が、今まさに教頭を務める日々の大きな支えとなっています。過去の苦い経験を繰り返さぬよう、どれほど業務が多忙を極めようとも、学校教育目標の実現に尽力し、学校・職員・子どものために新たな挑戦を続けていく決意です。



未来ある 子どもたちとともに…

南伊勢町立南島東小学校

平 岩 洋 佑

「おはようございます!」「一緒になわとびしませんか?」「さようなら!またドッジボールしましょう!」南島東小学校は、朝から夕方まで、子どもたちの元気な声と笑顔に溢れています。教諭時代、中学校で野球部の指導に明け暮れていた私にとって、初めての教頭、初めての小学校、初めての南伊勢町ということで、正直不安もありましたが、そんな子どもたちに元気をもらいながら、幸せな日々を送らせてもらっています。

また、久々の学校現場で感じたことは、校長先生をはじめとする先生方の熱意と温かさです。4月の職員会議では、校長先生から『『子どもが主人公』家庭と連携し、地域とともにあるアットホームな学校』というスローガンが示されました。若手からベテランまで、すべての教職員がそのスローガンのもと、子どもに寄り添った伴走型の教育を実践しています。このチームなら大丈夫!本心からそう思える教職員集団の一員として教育活動をさせてもらっているこ

とに感謝するとともに、教頭としてしっかりサポートしていきたいと思います。

最後に、昨年度まで県教育委員会に勤務させていただき、県内の多くの困難な教育課題に直面してきました。中には、未来ある子どもの命が失われるといった悲しい事案もありました。今、子どもたちと生活する中で、あらためてこの子たちの未来を守っていく責任と覚悟を強く感じています。校長先生のリーダーシップのもと、素晴らしい教職員たちとともに、南伊勢町、そして日本の宝物である子どもたちの未来のため、教育活動に取り組んでいきたいと思います。



少しの振り返りと めあて

鳥羽市立答志小学校

大 東 昭 彦

「海、船、のり、わかめ、しらす、とろ鱈……」赴任先が答志小学校に決まったときの第一印象は、「好き!」だった。引継ぎの日、人生で初めて答志島へ渡った。行きの定期船では迷わずデッキに出て、海風を浴びながら景色を眺めた。これから始まる新しい生活に胸を躍らせながら、教頭としての日々が始まった。

あれから一か月余り。ふと、想像していた自分になれているのだろうか考える。教諭としてある程度の経験を積み、これまで出会った教頭先生方の働きぶりも見てきたつもりだった。しかし実際にその立場になると、見えていなかった仕事の多さに驚く毎日である。書類作成に追われ、周りの先生方には、パソコンの画面を見つめ続けている姿ばかりが映っているかもしれない。「忙しいのにすみません」そんな言葉をかけてもらうたび、申し訳なさを感じる。余裕はまだなく、探し物に時間を取られ「今日は何もできなかった」と思いながら帰る日もあった。

それでも、分からないことは聞くように

している。校長先生をはじめ、職場のみなさんは手を止めて丁寧に教えてくださる。休みの日に前任の教頭先生へ電話をしたこともあったが、快く対応していただいた。本当にありがたい。何も生み出せていないと感じる日もあるが、人に恵まれていることを強く感じている。子どもたち、保護者のみなさん、地域のみなさん、そして初めて勤める鳥羽市で出会った教育委員会や教職員のみなさん。少しずつ、あたたかなつながりができていることが嬉しい。

今年の目標は、「鰯を釣る」ことに決めた。日々の業務をしっかりとこなしていけるようになることはもちろん、プライベートも充実させ、自分自身が楽しんで働きたい。教頭の仕事は楽しい。そんな思いが周りにも伝わるような管理職でありたいと思っている。



支える力に変えて

志摩市立志摩小学校

里 中 麻衣美

「教頭先生！」と声をかけられても、いまだにパッと振り向けない自分がいます。新しい職場で、新しい仕事内容に慣れないまま二ヶ月が過ぎてしまいました。何がどこにあるのかもわからない、聞かれたことに答えられない、「自分は何か役に立っているのだろうか…」と、悩む毎日です。しかし、校長先生をはじめ、職場の先生方が温かく声をかけ、私の失敗をカバーしてくださるおかげで、なんとか今日までやってこられました。教頭という職は学校にたった一人ですが、実は多くの人の支えによって成り立つ仕事なのだと、あらためて実感しています。

振り返れば、これまでの教師生活も周りの方々のおかげでばかりでした。初任校の女性教頭先生には、社会人としての心構えを教わり、一人暮らしの私に「しっかり

食べなさい」と夕飯のおかずを届けていただきました。結婚・出産を経て、育児と仕事の両立に悩んだ時期には、職場の先輩方が「担任の代わりはおっても、親の代わりはおらん」と、快く補欠に入ってくださいました。年齢を重ねてからは、一生懸命な後輩たちの姿に「私もがんばろう」と、たくさんの刺激をもらいました。決して自分一人の力ではなく、数え切れないほどの支えがあって、今の私があります。

今度は私が恩返しをする番です。日々子どもたちと向き合う先生方が、その力を存分に発揮できるよう、環境を整え心に寄り添うことが、教頭となった私の仕事だと思っています。今までたくさんの人に支えられてきた感謝を、今度は支える力に変え今できることを一つ一つ積み重ねていきたいです。



原点に立ち返って

伊賀市立青山中学校

田 矢 聡 子

約30年前、私は初任者として青山中学校に赴任しました。青山中学校のあとは4つの小学校で勤務し、県教委で行政の仕事に4年間携わり、教頭として戻ってきました。

入学式では、担任した子が親となり何人か保護者席に座っていました。授業参観でも「〇〇先生！覚えてる？」と話しかけてきて、あっという間に当時の記憶が蘇ってきました。授業参観後、子どもたちが部活をしているとき、二人の保護者が会いに来てくれました。二人は1年違いの先輩、後輩でキャプテンをしていました。二人と話していると、あの頃に戻ったような気になり、話が尽きませんでした。当時二人とはたくさん話をし、叱ることもありましたが、「あの頃、先生に出会ったから今の自分がある」「学級委員は、先生がいるからと思って引き受けた」と言ってくれました。その

ときの私は、業務に追われ、自分が思い描いていた教頭先生とは全く違う生活をしていました。できない自分にイライラし、私ではない方が先生たちにとって良いのではないか、今までの経験なんて何の役にも立っていない…と気持ちが下がっていました。二人と話したことで、気持ちが少し楽になり、教師になった頃の気持ちを思い出しました。そして、二人が教師という仕事に就いていることもあり、「私も負けずに頑張らない」と思いました。

真剣に子どもたちと向き合い一人ひとりと話をし、がむしゃらにやっていたあのときのよう、今は先生たちの様子をよく見て声をかけたり話したりする。……子どもが教職員に変わったということなんだと実感する毎日です。

この青山中学校で、担任した子が保護者となっていたり校区のことを知っていたりすることを「強み」とし、原点に立ち返って、先生たちがいきいきと自分らしく働ける「居心地の良い青山中学校」になるよう、私のできることをやっていきたいと考えています。



自分に 自信をもって

名張市立桔梗が丘東小学校

大垣内 清 広

教頭として赴任して、あっという間に2か月が過ぎようとしています。赴任当初は、「教頭として学校全体をよく見ていこう」「職員室の担任として、職員一人一人への声かけをがんばろう」という気持ちでスタートしました。しかし、現実とはそうではなく、目の回る毎日が続きました。締め切りが迫る大量の調査・報告文書、子どもたちや学校を支えてくれているPTAの会議や地域の方との関わり、トイレの水漏れなどのアクシデントへの対応。今やらなければならないことに全力で取り組むうちに、自分が

大切にしたいと思っていた気持ちを忘れかけていました。

そんな時、先輩から教えられた言葉を思い出しました。

「いつでも君らしさを忘れないで」

これまでと同じように、この言葉を今の自分に問いかけました。今の自分は、自分らしく働くことができているだろうか。本当にしんどかったのは、時間に追われていた毎日ではなく「自分がやりたいと思うことにチャレンジできていなかったこと」とあると気づきました。子どもたちが楽しく勉強する姿を見たい、先生たちのがんばりを応援したい、教室や職員室の環境をよくしたい……。

それから、時間を見つけては教室に足を運んでいます。子どもたちの元気な姿や先生たちのがんばる姿は、輝いて見えます。休み時間には、「教頭先生」と話しかけてくれる子どもも増えました。また、職員室では、「こんな掲示物があったら、いいだろうな」「こんな風にすれば、先生方は助かるかな」と考えながら頑張っています。

5年間、指導教諭として積み重ねた経験と、どんな課題に対しても誠実に粘り強く向き合えることが自分の強みです。そんな自分に自信をもって取り組んでいきたいと思います。まだ分からないことも多く、いつも温かく助けてくださる校長先生をはじめ、まわりの先生方には感謝の気持ちしかありません。そんなチームの一員として、これからは自分もみんなを支え、そしてみんなが働き甲斐のある職場をつくるため、精一杯努めていきます。



なんでも屋さん

尾鷲市立矢浜小学校

中 村 佳 栄

教諭として働いていた頃、「教頭先生はなんでも屋さん」と、何度も聞いてきた。

パソコン仕事や授業、生徒指導、保護者対応、行事の計画など、どんな仕事にも対応できて、困っていたらさっと助けてくれる。痒いところに手が届く、そんな存在なのだろうと思っていた。

4月、矢浜小学校で着任のあいさつをしたのは、校長先生、わたし、教諭、養護教諭、栄養教諭、非常勤の先生、そして校務員さん。校務員さん以外は、みんな矢浜小学校で働くのが初めてのメンバーだ。子どもたちのこと、教材や物の置き場所、学校行事、PTAのことなど、分からないことばかりで、毎日が手探り状態だった。困ったときは、去年のことを知っている担任の先生や事務の先生に聞きながら、一つひとつ教えてもらっている。教頭の仕事は校長先生に、提出する報告書類は事務の先生に教えてもらう。学調やみえスタの設定などで分からないことがあると、市内の教頭先生や校長先生、教育委員会に電話をして助けてもらっている。たくさんの人に支えてもらいながら、毎日なんとかやっている。

教頭になって、もうすぐ2か月。4月に比べると、少しずつ仕事の流れも分かってきて、周りの先生と雑談もできるようになってきた。ただ、算数や理科、書写などの授業準備には、今も変わらず追われている。毎日気づいたら夕方になっている。

今のわたしは、「なんでも屋さん」にはほど遠い。パソコン仕事がいちばん苦手。わたしのお店の商品はまだ少なく、先生方からの注文も多くない。それでも、これから少しずつ経験を重ねながら、「困ったら教頭先生に聞いてみよう」と思ってもらえる存在になりたい。痒いところに手が届き、いっしょに考えられる、そんな「なんでも屋さん」をめざしたい。まずは、プール掃除。こういうのは得意分野。がんばろう。



美しい山々を 背景に

紀宝町立相野谷中学校

西 濱 広 亮

私の職場である相野谷中学校の職員室からは緑豊かな山々が見渡せ、素晴らしい景色が眼前に広がっています。耳を澄ませばウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声が聞こえ、時にはサルが降りてきてザワザワと木を揺らす…。その後、追い払うための威嚇音が響き渡るのも、自然豊かなこの地ならではの日常の一コマです。慣れない仕事ばかりで日々の忙しさに追われることもありますが、こうした大自然の営みを感じながら、心穏やかに、そして毎日新鮮な気持ちで勤務しています。

そんな日々のなかで、改めて教諭時代（といっても、わずか2か月前ですが）のことを思い返してみると、当時は職員室で書類処理や教材研究に追われ、どちらかという下を向いて自分の作業をこなす時間が長かったように記憶しています。一方で、自分が受け持ったクラスではどうだったかというと、「一人ひとりを大切にした対応」を心掛け、できるだけ前を向いて生徒の様子を観察し、たとえ作業のために下を向いていても生徒同士の会話に耳を澄ましているのが当たり前でした。

新米教頭としての私の一番の目標は、「職員室の担任」として、この職員室をかつての自分のクラスと同じように捉えることです。できるだけ前を向き、耳を澄ますことで、先生方の表情やつぶやきから小さな変化に気づけるようになりたいと考えています。どれだけ事務作業が多くても、「自分の仕事相手はパソコンじゃない！目の前にいる先生方であり、生徒たちだ！」ということを常に意識して過ごしていきたいです。そして、それに疲れたときは窓の外の美しい景色を眺め、鳥の声を天然のBGMにして心をリフレッシュさせながら、少しずつ管理職として成長していきたいです。

記念講演

演題 『これからの時代に必要な非認知能力とその育て方』

講師 教育活性家 ^{なかやま} 中山 ^{よしかず} 芳一さん

研修会では、非認知能力の育成を中心とした教育実践のあり方を提唱されている中山芳一氏による「これからの時代に必要な非認知能力とその育て方」の講演が行われました。

標準化された数値という共通の尺度では測ることのできない非認知能力。その重要性に早くから着目されてきた中山氏は、非認知能力を「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」の三つのグループに分けて紹介されました。私たち教育に携わる者は、これらの力が子どもの学力や社会性を伸ばす上で欠かせないことを経験的に理解しています。中山氏は、「非認知能力には発達段階に応じて伸びる時期がある」ことを学説に基づいて説明され、気質は変えられなくても行動は変えられること、その適切な時期における教育の重要性について語られました。

また、学校現場に浸透している「めあてと振り返り」についても、漫然と行うことへの問題提起がありました。「どうしてそうなったのか」「それってどういうことなのか」「学んだことをこれからどのように生かしていくのか」と自ら問いを立てながら質の高い振り返りを行うことの大切さを力説されました。さらに、こうした視点を全職員がチームとして共有することが、

学校教育目標の具現化につながることを示され、私たちの思考を整理してくださいました。

講演の後半では、非認知能力の育て方を五つの段階に分け、具体的な実践方法について分かりやすく紹介されました。特に印象的だったのは、ギミックブラッシュアップシートを活用した学習です。子どもの「やってみたい」「もっと知りたい」「さらに挑戦したい」という感情を揺さぶる学習活動は、児童生徒の能動的な学びにつながります。シートの活用により、ギミック（感情を動かす仕掛け）を学習展開の中にどれだけ組み込めたかを視覚化することができ、授業改善や管理職としての指導・助言にも有効なツールであることを学びました。

（文責：鵜川原小 高橋）

